

第46回 日本医学放射線学会秋季臨床大会

第24回 胸部放射線研究会

The 24th Annual Meeting of the Japanese Society of
Thoracic Radiology



2010・YOKOHAMA

大会長：福田 国彦（東京慈恵会医科大学 放射線医学講座）

当番世話人：栗原 泰之（聖マリアンナ医科大学 放射線医学講座）

日時：平成22年9月18日（土）

会場：パシフィコ横浜

ご 挨拶

第24回 胸部放射線研究会当番世話人
聖マリアンナ医科大学 放射線医学講座

栗原 泰之

第24回胸部放射線研究会の当番世話人を務めさせていただきます栗原から一言ご挨拶をのべさせていただきます。

本研究会は4半世紀近く画像・病理相関を基軸とした症例を集め学ぶ機会として日本の胸部放射線レベルの向上に大きく寄与して参りました。前回からさらに、より実践的な症例を拾い上げるため臨床診断症例を含めたり、要望演題を設けコメンテーターとして呼吸科医を招き臨床家の声を聞く機会を創りました。この企画は開催後のアンケートによると大変好評をいただいたので、今年も継続することにしました。今年の要望演題は「膠原病・血管炎(原病の画像診断のみならず、治療や合併症で画像が興味深いものを含む)」で、多彩な画像を呈する疾患群ですが、病理診断が得にくく臨床診断が重要となる領域を皆さんと学びたいと思います。また、昨年アンケートで要望が多かった film interpretation の企画ですが、限られた日程の中で実施するのが難しいので、今回は Quiz 演題を企画しました。これは、演者には疾患名を伏せて presentation していただき、座長との掛け合いのもと、会場から答えを募ったり、簡単な議論をして、最後に種明かしをしてもらう企画です。残念ながらこの演題数は少なく、短い時間ですが、参加される皆さん全員で画像を見て考える機会を持ちたいと思います。

こうした演題とは別に、昼休み前後には、多くの会員の先生方にもご協力いただいた「蜂窩肺のCT診断に関する project」の結果報告を埼玉医科大学国際医療センター酒井文和先生していただく予定です。日頃から問題となっている極めて重要な画像所見に関して大変貴重な情報が得られるのではないかと期待しております。また日本の胸部放射線医学をこうした高いレベルまで引き上げていただいた偉大な諸先生へ感謝と賞賛を示す機会も用意させていただきました。この催しにも多数の御参加をお願いします。

座長には高い学識を誇る中堅の人たちに加え、元気な新進気鋭の先生方にもお願いいたしました。病理のコメンテーターには神奈川がんセンター病理診断科の横瀬智之先生と関東中央病院臨床検査・病理科の岡輝明先生をお招きしましたので、各々の症例について、より深い考察や観察点を頂けるものと思います。要望演題のセッションには聖マリアンナ医科大学リウマチ・膠原病・アレルギー内科の山田秀裕先生に臨床コメントをお願いしてあります。鋭い切り口で臨床的なご意見を頂けるものと期待しております。

37演題の症例報告と共同研究結果報告と盛りだくさんな1日となります。多くの先生といっしょに胸部放射線診断の醍醐味を楽しみたいと願っております。

第24回 胸部放射線研究会プログラム

開会の挨拶 (8:40~8:45)

当番世話人 栗原 泰之(聖マリアンナ医科大学放射線医学講座)

セッション1 (8:45~9:30)

座長: 大久保裕雄(済生会栗橋病院 放射線科)

病理コメンテーター: 横瀬 智之(神奈川がんセンター 病理診断科)

01 多発肺血管筋脂肪腫の1例

順天堂大学 放射線医学講座

鈴木 一廣

02 左主気管支に発生した多形腺腫の1例

四国がんセンター 放射線科

中島 直美

03 縦隔発生 Capillary Hemangioma の一例

神戸大学大学院医学研究科 内科系講座 放射線医学分野

渡邊 慶明

04 健診発見された肺腺腫の一例

大阪大学 放射線統合医学講座 放射線医学教室

形部 倫子

05 後縦隔に発生した glomus tumor の一例

名古屋市立大学病院 放射線科

鈴木 智博

セッション2 (9:30~10:15)

座長: 南部 敦史(山梨大学 放射線科)

病理コメンテーター: 岡 輝明(関東中央病院 臨床検査・病理科)

06 在日ブラジル人に発症したパラコキシジオイデス症の一例

静岡県立静岡がんセンター 画像診断科

遠藤 正浩

07 肺野末梢の限局性すりガラス様陰影から肺門側へと進展がみられた癌性リンパ管症の1例

四国がんセンター 放射線科

菅原 敬文

08 全身播種性ムコール症を呈した1例

旭川医科大学 放射線医学講座

佐々木智章

09 minute pulmonary meningothelial-like nodules (MPMN) の一例

慶應義塾大学 放射線診断科

松本 俊亮

10 多中心性 Castleman 病様の所見を呈した IgG4 関連疾患の一例

産業医科大学 放射線科学

山下 慶子

セッション3 (10:15~11:00)

座長：八木橋 国博 (聖マリアンナ医科大学放射線医学講座)

病理コメンテーター：横瀬 智之 (神奈川がんセンター 病理診断科)

11 T-cell lymphoma 完全寛解 14 年後に発症した Anaplastic large cell lymphoma の 1 例

奈良県立医科大学 放射線医学教室

小川 真代

12 診断に苦慮した臓側胸膜由来孤立性線維性腫瘍の一例

兵庫県立がんセンター 放射線診断科

橋本 知久

13 肺原発の solitary fibrous tumor の一例

熊本大学医学部 画像診断・治療科

吉田 守克

14 縦隔由来の脂肪肉腫の一例

東京女子医科大学 画像診断・核医学科

松尾 有香

15 縦隔原発脱分化脂肪肉腫の 1 例

昭和大学横浜市北部病院 放射線科

船木 翔

蜂窩肺の CT 診断に関する project の結果報告 (11:00~11:30)

埼玉医科大学国際医療センター 画像診断科 酒井 文和

Award (11:30~11:50)

昼 休 み (12:15~13:15)

世話人会 (12:00~13:00)

セッション4 (13:30~14:15)

座長：山城 恒雄(琉球大学大学院医学研究科 放射線診断治療学講座)
臨床コメンテーター：山田 秀裕(聖マリアンナ医科大学 リウマチ・膠原病・アレルギー内科)

- 16 長期間 GGO として観察され、陰影に変化が見られた1例
香川大学 放射線科 石村茉莉子
- 17 Reversed halo sign を呈した Wegener 肉芽腫症
徳島大学 放射線科 能勢 隼人
- 18 ベーチェット病に生じた肺胞出血の一例
琉球大学大学院医学研究科放射線診断治療学講座 神谷 尚
- 19 Sjogren 症候群に合併した多発嚢胞性疾患の1例
亀田総合病院 放射線科 長谷聡一郎
- 20 methotrexate induced lymphoproliferative disorder の1例
聖マリアンナ医科大学 放射線医学教室 池田 裕隆

休憩 (14:15~14:25)

セッション5 (14:25~15:19)

座長：杉浦 弘明(慶応大学 放射線科)
病理コメンテーター：岡 輝明(関東中央病院 臨床検査・病理科)

- 21 長期経過を観察しえた画像上進行増悪を示す慢性過敏性肺臓炎と考えられる1例
奈良県立医科大学 放射線科 三浦 幸子
- 22 胸郭変形による気管切開後気管腕頭動脈瘻の1例
滋賀医科大学 放射線医学講座 小河 希依
- 23 肺原発 Langerhans cell histiocytosis の1例
岡山大学 放射線医学講座 宇賀 麻由
- 24 亜急性期の経過で死亡に至った肺異所性石灰化の一例
川崎医科大学 放射線科 谷本 大吾
- 25 農薬服毒による自殺未遂の一例
医療法人川崎病院 放射線科 木村 和彦
- 26 検診で異常指摘されたびまん性肺疾患の1例(Quiz 症例)
国立病院機構 近畿中央胸部疾患センター 放射線科 大隈 智尚

セッション6 (15:19~16:05)

座長：松迫 正樹(聖路加国際病院 放射線科)
病理コメンテーター：横瀬 智之(神奈川がんセンター 病理診断科)

- 27 非典型的な画像所見を呈した2例(Quiz 症例)
山口大学医学部 放射線科 国弘 佳枝
- 28 右肺に大きな空洞を形成した一例(Quiz 症例)
長崎大学病院 放射線科 安井 和明
- 29 成熟奇形腫から腺癌が発生した前縦隔原発
germ cell tumor with somatic type malignancy の1例
聖路加国際病院 放射線科 赤池 源介
- 30 縦隔および肺に発生した血管筋脂肪腫の一例
独立行政法人 国立病院機構 九州がんセンター 放射線科 森田孝一郎
- 31 診断と治療方針に苦慮した小型胸腺癌の1例
長崎大学 放射線科 荻原 幸宏

休憩 (16:05~16:15)

セッション7 (16:15~17:10)

座長：氏田万寿夫(独立行政法人 国立病院機構 西群馬病院 放射線科)
病理コメンテーター：岡 輝明(関東中央病院 臨床検査・病理科)

- 32 特異な形態を呈した非定型抗酸菌症の一例
佐賀大学附属病院 放射線科 近藤 哲矢
- 33 広範なスリガラス状陰影や広義間質の肥厚を認めた急速進行性肺炎の一例
東京医科大学 放射線科 橋本 剛史
- 34 殺虫剤誤嚥による外因性リポイド肺炎の一例
九州大学医学研究院 臨床放射線科学 石松 慶祐
- 35 肺病変で稀な形態を示した多中心性キャスルマン病の1例
久留米大学 放射線科 岩本 良二
- 36 びまん性すりガラス影を呈した溶接工肺の一例
佐賀大学医学部 放射線科 江頭 玲子

37 経過が追跡でき剖検肺で画像と病理が対比できた特発性肺線維症の1例

天理よろづ相談所病院 放射線部

西本 優子

閉会の挨拶 (17:10～17:15)

代表幹事：村山 貞之(琉球大学大学院医学研究科 放射線診断治療学講座)

1) 順天堂大学 放射線医学講座、2) 同 人体病理病態学講座、3) 関東労災病院 病理診断科、
4) 順天堂大学 呼吸器外科

○鈴木一廣¹⁾、桑鶴良平¹⁾、松波 環¹⁾、白石昭彦¹⁾、林大久夫²⁾、植草利公³⁾、
鈴木健司⁴⁾

症例は60歳代の女性。健康診断時の胸部 X 線撮影で右肺に異常影を指摘され、当院を紹介受診となった。胸部 CT で右下葉 S6 に 23mm の充実性結節があり、その辺縁は不整であった。その他にも両肺に 5mm ほどまでの充実性結節が多発しており、その辺縁は明瞭であった。FDG-PET/CT では右 S6 の病変にのみ集積 (SUV max 6) がみられた。以上の画像所見より右下葉肺癌と診断し、多発結節に関しては肺内転移の可能性が残された。治療方針として、手術にて多発する微小結節の術中迅速病理診断を行い、肺内転移が否定されれば右下葉切除を行うこととした。手術ではまず右上葉の微小結節の切除を行い、迅速病理診断で悪性所見はなかった。術前の方針の通り、右下葉切除を行い、手術は終了した。術後の病理診断では右下葉 S6 の病変は肺腺癌と診断され、多発していた微小結節は血管筋脂肪腫と診断された。患者は以前より右腎に 10cm を超える腫瘍があることが知られており、これは CT、MRI で血管筋脂肪腫と診断されていた。肺血管筋脂肪腫はまれではあるが報告があり、腎血管筋脂肪腫や結節性硬化症、リンパ脈管腺筋症との関連が示唆されている。今回の症例では肺血管筋脂肪腫は多発肺結節の形態を示し、肺腺癌の肺内転移との鑑別が問題となった。

1) 四国がんセンター 放射線科、2) 同 呼吸器外科、3) 同 病理科

○中島直美¹⁾、菅原敬文¹⁾、上津孝太郎¹⁾、青野祥司¹⁾、酒井伸也¹⁾、高橋忠章¹⁾、井上 武¹⁾、澤田茂樹²⁾、山下素弘²⁾、西村理恵子³⁾

図1



図2

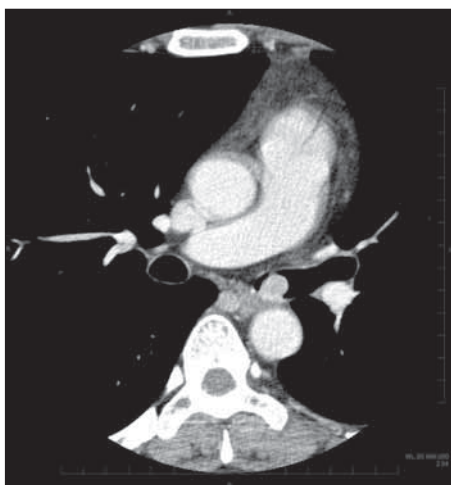
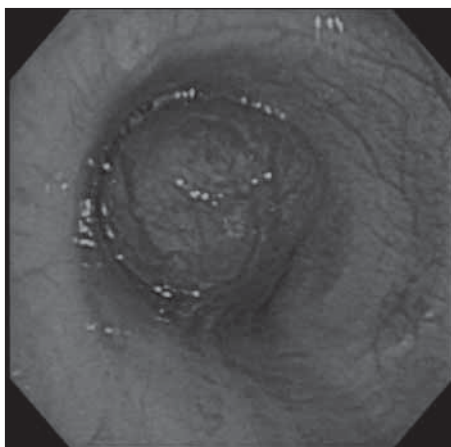
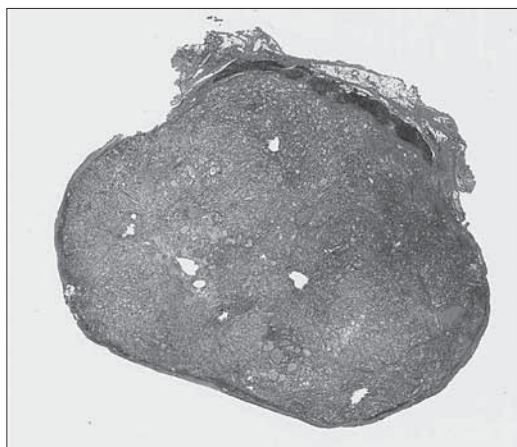


図3



症例は30歳代、男性。血痰、微熱のため、近医受診。胸部単純写真、CTにて異常を指摘され、当院呼吸器外科紹介。胸部単純写真で、左肺野透過性の亢進、血管影の狭小化あり、左主気管支に約1.5cm大の境界明瞭な結節影がみられた(図1)。造影CTにて、左主気管支後壁に広基性の茎を有し気道を閉塞する類円形腫瘤を認め、造影早期相から漸増する造影効果を示した(図2)。病変基部では気管支壁が肥厚しており、一部壁外への浸潤も疑われた。気管支鏡では、左主気管支内をほぼ閉塞する球形の腫瘍で膜様部に広基性の茎を認めた(図3)。気管支原発の腫瘍として、カルチノイドが疑われ、左主気管支壁を一部着けて腫瘍切除が施行された(図4)。組織学的には、管腔を形成する上皮が島状にみられ、間を線維性間質が埋めていた。篩状構造がみられ、篩の穴の部分には上皮性粘液がみられ、基底膜様物質はみられず、MIB1標識率は1%未滿と低かった。以上より、多形腺腫と診断された。多形腺腫は唾液腺に好発する良性腫瘍であり、唾液腺以外に発生することは稀で、涙腺、喉頭、乳腺などが報告されているが、気管・気管支や肺に発生することは極めて稀である。病理学的には良性であるが、臨床的には低悪性度腫瘍として取り扱われ、手術が第一選択とされている。また、唾液腺発生源より悪性化、再発・転移の頻度が高い(悪性化が約10%)と報告されており、術後も慎重な経過観察が必要である。

図4



1) 神戸大学大学院医学研究科 内科系講座 放射線医学分野、
2) 兵庫県立がんセンター 病理診断科、3) 神戸大学附属病院 病理診断科

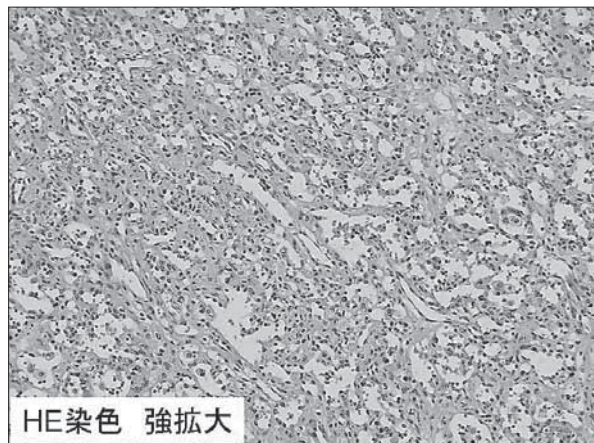
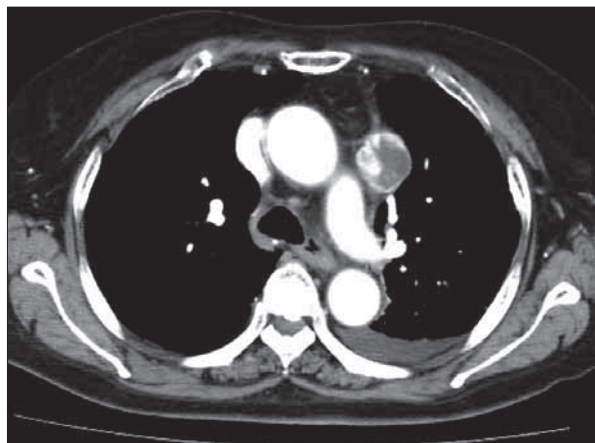
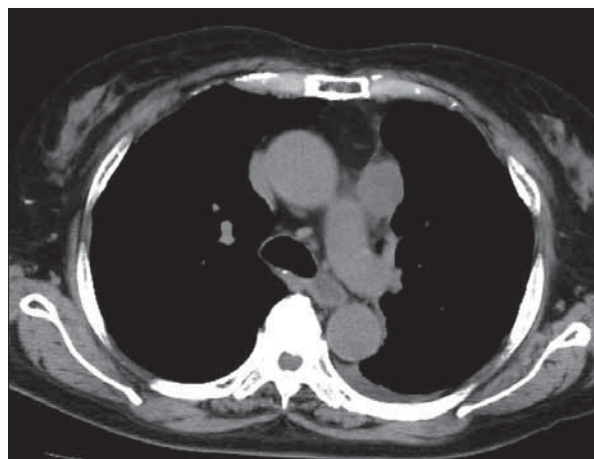
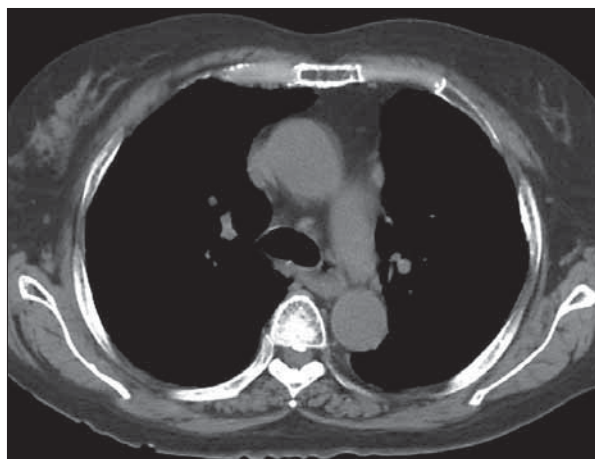
○渡邊慶明¹⁾、尾西由美子¹⁾、神山久信¹⁾、竹中大祐¹⁾、松本純明¹⁾、大野良治¹⁾、
大林千穂²⁾、伊藤智雄³⁾、杉村和朗¹⁾

症例は70歳代前半の女性。20年前よりSLEにて加療中であるが、2005年には肝細胞癌を指摘され、手術を施行された。そして、2009年3月の術後経過観察目的にて撮像された胸部CTにて縦隔に結節を指摘され、3ヶ月後の経過観察CTにて軽度増大傾向が認められたため、精査加療目的で当院呼吸器外科紹介受診した。受診時腫瘍マーカーに明らかな異常はみられなかった。

受診時胸部CTにて前縦隔に長径約28mm大の境界明瞭な卵円形結節を認め、以前のCTよりも増大傾向が認められた。また、結節内部には明らかな脂肪や石灰化は認められず、造影CTにて結節の辺縁を中心に比較的強い造影効果を示した。また、胸部MRIにおいてT2強調像、STIR像および拡散強調画像で中等度から高信号を示し、T1強調像では比較的low信号を示した。また、造影T1強調像においてほぼ均一な造影効果が認められた。良・悪性鑑別目的にて施行されたFDG-PETでは $SUV^{max}=1.9$ とごく軽度の集積亢進をみとめた。

肝細胞癌の術後であり、縦隔リンパ節転移が疑われたため、胸腔鏡下摘出術が施行された。摘出標本の病理診断において結節は薄い偽被膜を有しており、内部に密な血管増生が認められた。明らかな核異型は見られず、capillary hemangiomaと診断された。

縦隔発生の血管腫は稀であり、文献的考察を加えて報告する。



04

健診発見された肺腺腫の一例

1) 大阪大学 放射線統合医学講座 放射線医学教室、2) 同 病態病理学教室

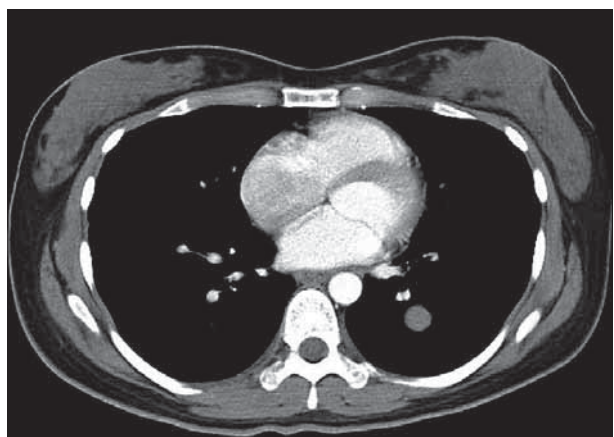
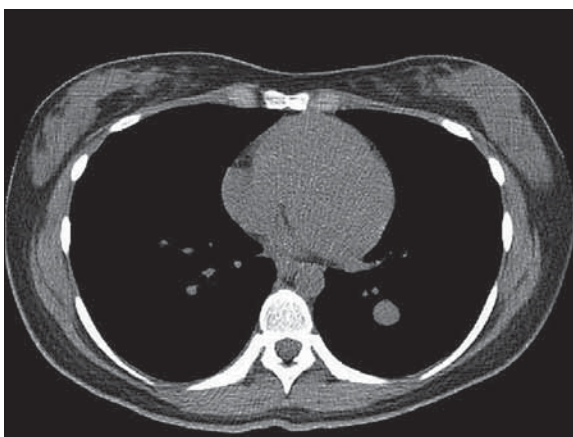
○形部倫子¹⁾、本多 修¹⁾、喜久山綾乃¹⁾、梁川雅弘¹⁾、澄川裕充¹⁾、小山光博¹⁾、森井英一²⁾、富山憲幸¹⁾

症例は20歳代の女性。2004年入職時健診の胸部単純写真にて、左下肺野に約2cm大の結節を指摘された。同年3月に当院呼吸器内科を受診。4月に施行されたCTでは、左肺S9/10に約2cmの境界明瞭で辺縁整な類円形の、内部が均一な軟部組織結節を指摘された。造影CTでは、中等度の増強効果が認められた。

気管支鏡が施行され、細胞診はclass IIであった。組織診では軟骨性過誤腫が疑われた。気管支鏡の結果からは良性疾患と考えられたが、2002年4月、2003年3月の単純写真と比較すると経時的に出現、増大傾向が見られたため、手術の方針となった。2004年6月、左肺過誤腫の疑いで、胸腔鏡下左肺腫瘍核出術が施行された。病理組織診では乳頭状の細胞増殖がみられたものの異型は目立たずCEA陰性、SP A陽性で、II型肺胞上皮由来の乳頭状腺腫と考えられた。術後の経過は良好で、明らかな再発なく経過。

肺腺腫は画像上、非特異的な孤立性肺結節として認められる。診断は免疫染色を含め、組織学的に行われる。今回の症例でも、画像上は疾患を特定することはできなかったが、組織学的検索により診断し得た。

肺腺腫は肺の非常に稀な良性腫瘍であり、若干の文献的考察をふまえて報告する。



ご 案 内

第24回胸部放射線研究会 平成22年9月18日(土) 8:40~17:15
会議センター3F 301(パシフィコ横浜)

口演発表者へのご案内

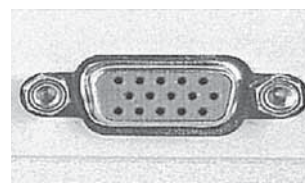
発表データ(PowerPoint ファイル)は、発表予定時間の30分前までにPCプレビューセンター(1F)にお渡しください。データ持込みが原則ですが、パソコン持込みにも対応します。

1. データ持込について

- 1) 発表予定時間の30分前までに、PCプレビューセンター(1F)にて試写用パソコンで発表データの確認を行ってください。プレビューセンターにはオペレーターが待機しております。動画や音声をご使用になる場合は、データ登録の際に必ずお知らせください。
- 2) 試写が終了しましたらデータはLAN回線を経由して、発表会場まで転送されます。
- 3) セッションの始まる15分前には会場でお待ち下さい。
- 4) 発表会場ではデータの修正はできませんので、予めご了承ください。
- 5) タイトル画面はオペレーターが開きます。演台にモニターとコントローラー(スライドページを前後移動するボタン)がありますので、発表時の操作はご自身で行ってください。
- 6) お持込みいただけるメディアは以下のとおりです。
USBフラッシュメモリ
- 7) データの容量は最大512MBまでとさせていただきます。
- 8) OSとアプリケーションは以下のものをご用意します。
OS: Windows XP アプリケーション: Windows版PowerPoint 2000, 2003, 2007, 2010
- 9) 発表に使用するPCは全てXGA(1,024×768)に統一してありますので、ご使用のPCの解像度をXGAに合わせてからレイアウトの確認をしてください。
- 10) 動画などの参照ファイルがある場合は、全てのデータを同じフォルダに入れてください。
*動画ファイルの注意点
Windowsの場合: XP(OS)及びWindows Media Player 9の初期状態に含まれるコーデックで再生できる動画ファイルをお持ちください。
(動画ファイルはMPEG1形式、WMV形式を推奨します)
- 11) メディアを介したウイルス感染の事例がありますので、最新のウイルス駆除ソフトでチェックしてください。
- 12) 発表データの作成後、作成したパソコン以外のパソコンで正常に動作するかチェックして下さい。
- 13) 設備の都合上PCの音声には対応いたしません。
- 14) 発表データは、「PCデータ受付」のサーバと会場のパソコンに一時保存いたしますが、これらのデータは本学会終了後、責任を持って廃棄します。

2. パソコンの持込について

- 1) 発表予定時間の30分前までにプレビューセンターにて出力をチェックして下さい。プレビューセンターにはオペレーターが待機しております。
Macintoshを使用の方はご自身のPCを持ち込みください。出力はD-Sub15pin(ミニ)のみ対応しております。コネクタが必要な場合は、変換アダプターを各自で必ずご持参ください。
- 2) プレビューセンターにてチェックのうえ、セッションの始まる15分前には会場へパソコン(必要な場合は接続アダプタ)をお持ちください。会場には次演者席付近にオペレーターが待機しておりますので、プロジェクトへの接続をお申し出ください。
- 3) プロジェクタへの接続はオペレーターが行いますが、発表時の操作はご自身で行ってください。
- 4) パソコンにトラブルのあった場合に備えて、バックアップとしてUSBフラッシュメモリをご用意ください。
- 5) 設備の都合上PCの音声には対応いたしません。



D-Sub15pin(ミニ)

3. 発表時間は司会者に従い厳守して下さい。発表6分、質疑応答3分を予定しております。

第16回中国四国胸部画像カンファレンス (胸部放射線研究会中国四国支部)

日 時：平成21年11月7日(土)

場 所：オルガホール
岡山市北区奉還町1-7-7

当 番 顧 問：山口大学大学院医学系研究科(放射線医学) 松永 尚文
当番世話人：山口大学大学院医学系研究科(放射線医学) 田中 伸幸
事 務 局：香川県立保健医療大学看護学科 佐藤 功

プログラム

病理コメンテーター：山口大学 権藤 俊一
座 長：山口大学 田中 伸幸

出題者

解答者

- | | | |
|--|------------|------------|
| 1 | 高知大学 濱田 典彦 | 岡山大学 宇賀 麻由 |
| 肺結節精査目的に紹介され、クリプトコッカスと他葉に
細気管支肺胞上皮癌を認めた1例 | | |
| 2 | 徳島大学 高尾正一郎 | 川崎医大 谷本 大吾 |
| 血痰で発症した両肺異常影を呈した Wegener 肉芽腫症 | | |
| 3 | 島根大学 中村 恩 | 広島大学 谷 千尋 |
| 診断に苦慮しているびまん性間質性陰影を呈した DIP の一例 | | |

《 休 憩 》

病理コメンテーター：山口大学 権藤 俊一
座 長：岡山大学 加藤 勝也

- | | | |
|----------------------------------|------------|------------|
| 4 | 山口大学 岸 堯之 | 高知大学 中谷貴美子 |
| 食道および肺に病変を形成した興味ある MALT リンパ腫の1症例 | | |
| 5 | 香川大学 室田真希子 | 徳島大学 岩河 早保 |
| びまん性陰影の肺ランゲルハンス細胞組織球症の1例 | | |
| 6 | 川崎医大 谷本 大吾 | 島根大学 中村 恩 |
| 発熱、咳嗽を繰り返した胸部異常影を呈した放線菌症の一例 | | |

ACTR 2011 Kyoto, Japan

2011年5月13-14日にアジア胸部放射線会議をリーガロイヤルホテル
京都で開催します。多数の先生方のご参加をよろしくお願ひします。

ACTR 2011 Kyoto, Japan

The 2nd Asian Congress of Thoracic Radiology



May 13-14, 2011 Kyoto, Japan

Venue: Rihga Royal Hotel Kyoto

President: Kiyoshi Murata, M.D., Ph.D.

Shiga University of Medical Science

<http://www.congre.co.jp/actr2011>

Secretariat

c/o Congress Corporation 3-6-13 Awajimachi, Chuo-ku,
Osaka, 541-0047, Japan
Phone: +81-6-6229-2555 Fax: +81-6-6229-2556 E-mail:
actr2011@congre.co.jp

President's Office

Department of Radiology, Shiga University of Medical Science
Seta Tsukinowa-cho, Otsu City, Shiga, 520-2192, Japan
Phone: +81-77-548-2288 Fax: +81-77-544-0986
E-mail: hqradio@belle.shiga-med.ac.jp

Journal of Thoracic Imaging への掲載について

Journal of Thoracic Imaging (JTI) は、Society of Thoracic Society (STR), Japanese Society of Thoracic Radiology (JSTR), Korean Society of Thoracic Radiology (KSTR) の Official Journal で、Impact factor 0.763 (2001) の雑誌です。

2002年のRSNAにおいて開催された編集会議において、日本の胸部放射線研究会事務局と雑誌編集事務局の間で、以下の点が合意されました。

日本の胸部放射線研究会によって査読され採用が決定された3つの英文の Case report を JTI の review を省略して Journal of Thoracic Imaging にまとめて掲載する。

今後の予定

本年 9 月 18 日	胸部放射線研究会
12 月	世話人の推薦による JTI 候補演題の決定、論文執筆の依頼
来年 3 月	論文締め切り
4 月	査読
5 月	改訂および再投稿
6 月	JTI に 3 論文送付

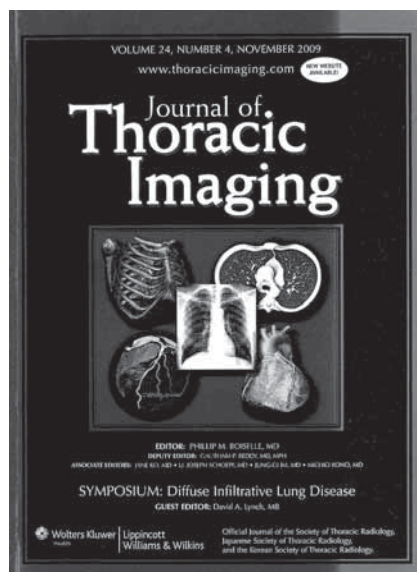
JTI 日本事務局：滋賀医科大学放射線医学講座

高橋 雅士

〒520-2192 滋賀県瀬田月輪町

TEL：077-548-2288 FAX：077-544-0986

E-mail：masashi@belle.shiga-med.ac.jp



NPO 法人について

事務局では胸部放射線研究会が独自の財政基盤を持ちながら、学術集会ばかりでなく、種々の活動を推進していくために、NPO 法人を2003年11月に設立しました。胸部放射線医学に興味をもち発展を願う人なら誰でも参加できる組織で、法人格を得て種々の活動を積極的に進めていこうとするものです。

名 称：特定非営利活動法人（NPO 法人） 日本胸部放射線医学研究機構
Japan Thoracic Radiology Group (JTRG)

事 業：・胸部放射線医学領域における学術振興のための研究会開催の支援
・胸部放射線医学領域における多施設共同臨床研究の支援
・胸部放射線医学領域における民間機関との共同研究の支援
・胸部放射線医学領域における国際協力活動あるいは共同研究の支援
・医療従事者ならびに社会一般に対する胸部放射線診療の広報活動

正会員（個人）：年会費 1万円

準会員（企業）：入会金 2万円 年会費 2万円

このNPO 法人に興味をもたれ、資料や入会申込書等を必要とされる方は、E-mailにて胸部放射線研究会事務局まで氏名、所属機関名、連絡先住所、電話番号をお知らせください。資料を送らせていただきます。

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町
滋賀医科大学放射線医学教室内
特定非営利活動法人日本胸部放射線医学研究機構
TEL：077-548-2288
FAX：077-544-0986
E-mail：hqradiobelle@shiga-med.ac.jp

第24回 胸部放射線研究会 プログラム・抄録集

発行：胸部放射線研究会

胸部放射線研究会事務局：

〒903-0215 沖縄県西原町字上原207

琉球大学大学院医学研究科放射線診断治療学講座内

TEL：098-895-1162 FAX：098-895-1420

E-mail：yukitomo@eve.u-ryukyu.ac.jp

出版：Secand 株式会社 セカンド
熊本県熊本市水前寺4丁目39-11
TEL：096-382-7793

協賛・広告掲載会社一覧

石黒メディカルシステム株式会社

エーザイ株式会社

株式会社エルクコーポレーション

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

財団法人近畿健康管理センター

コニカミノルタヘルスケア株式会社

コヴィディエンジャパン株式会社

GEヘルスケア・ジャパン株式会社

シーメンス・ジャパン株式会社

塩野義製薬株式会社

株式会社島津製作所

第一三共株式会社

大正富山医薬品株式会社

大日本住友製薬株式会社

株式会社ダテ・メディカルサービス

田辺三菱製薬株式会社

東芝メディカルシステムズ株式会社

日本化薬株式会社

日本メジフィジックス株式会社

株式会社根本杏林堂

ノバルティスファーマ株式会社

バイエル薬品株式会社

株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン

富士フイルムメディカル株式会社